

古民家 日本茶カフェに

明治時代に茶店兼住宅として使われ、国の文化財に登録されている流山市の古民家に、日本茶カフェ「葉茶屋 寺田園」がオープンした。昔ながらの外観を残した築130年の建物は、新たな地域の交流拠点へ生まれ変わった。

流山 築130年「寺田園」改装



古民家を改装してオープンした日本茶カフェ「葉茶屋 寺田園」(流山市で)



8月27日に開店したカフェを運営するのは、観光振興会社「流山ツーリズムデザイン」。所有者から昨年、建物を買い取り、改装した。カフェは2階建ての1階部分で営業する。当時の柱や壁を残した趣ある店内で、ブレンド茶や地元名産

のみりんを使ったスイーツが楽しめる。

古民家は1889年(明治22年)、のみりん醸造業で栄えた流山本町地区に建てられた。黒色のしつくいので塗られた壁と土蔵造りの建物で、昭和中期まで1階で「寺田園茶舗」が営まれていた。しばらく空き店舗だったが、2010年に市在住の万華鏡作家、中里保子さんがミュージアムを開設。11年に文化財に登録された。

ミュージアムは2階に移転し、カフェと共に地域の魅力を発信する。営業時間は午前10時〜午後6時で、第2、4月曜日は定休。

門脇伊知郎社長(53)は「元々、茶葉を売っていた建物。古民家の柱からは当時の香りが楽しめるはず」と来場を呼びかけている。

築130年の趣を感じさせる外観